

募集を始めた当初は、色々な問題をばらばらでいる被災地であり、また距離も遠いだけに、生徒は集まらないかなと心配していました。ところが、最終的に高校3年生のチームが20名、高校生1・2年生のチームが19名の参加を得て、被災地を2回訪問することができました。この地震・震災に対する関心の高さ、他人事にできない気持ちを反映しているように思います。

行く前に、彼女たちにお願したことは、自分たちの目



石巻市の牡鹿半島小浜にて、ワカメの芽株収穫のお手伝いをしました。

生徒の派遣

2012年3月11日(日)、東北地方太平洋沖地震発生から一年目の日に、現地に生徒を送ることが出来ました。

執事 イサク 坪井 智

東日本大震災から一年を経て

や耳や鼻を最大限に使って、被災地の真実を感じとって、

多くの参加者は、被災者のために何かできることはないかと思っていたようですが、行って・見て・聴いて、彼女たちが感じたことは、むしろ被災者から色々なものを受け

「はじめは、自分の目で見て信じられず、どこか遠い異空間にきたようでした。毎日泊まらせて頂いているキャンプ場から、活動場所の大原まで何回往復しても、窓からの景色に慣れることはありませんでした。現地の方々にお話を聞かせていただくにつれ、

地震から一年

発生した日と主日が重なった今年、多くの教会では、礼拝の中で東日本大震災によって命を落とされた方々の魂の

「新聞やテレビで見る被災地の光景は、何となく遠い感じがして、あまり身近に感じる事ができなかったけれど、実際に行ってみて、これが現実なんだと確信することができました。無残な空っぽの家やひどい地割れの光景を絶対に忘れてはいけなと思います。」

「行く前は、仮設住宅がたぐさん出来ていて、復興計画(お店や住宅の建てる場所の詳しいことなど)が進んでいる、復興に向かって活気づいているんじゃないかと想像していたのですが、かなり自分の想像から掛け離れていて、何も知らずに『頑張れ!』とか『復興!』などと言ってはいけななと感じました。」

これが現実で、まだまだ辛い苦しい思いをされている方が沢山いらっしゃるんだと感じました。それでも、私たちの前ではそんな素振りは一切見せず、笑顔で私たちと向き合ってくださるので、逆に元気を頂きました。」

平和、被災者へ神の恵みがますます注がれることを求め、祈られたことと思います。生徒たちが、色々な慰霊行事の準備のために出て行った後、私は少し時間を頂き、どこで祈りを捧げようかと思いましたが、残念ながら活動場所の石巻には聖公会の教会がなく、どこが良いかなと思っていたら、石巻ハリストス正教会と慰霊の祈りをやっていますという看板をみて、引き込まれるように礼拝堂に入っていました。

実は、このハリストス正教会の旧会堂は、市の施設として、地震以前に石巻市の旧北上川の中洲に移築されていました。そして今回ともに津波を浴びました。たまたま発生から一週間後、支援活動をしてきた地区の対岸に被災した旧会堂を望むことができ、撮った写真がキリスト新聞等に掲載されることとなりました。その時から、新しくなった現在のハリストス正教会を訪れてみたいと思っており、今回慰霊追悼の礼拝に参加することができました。

正教会のアカペラで歌われる祈禱文は、死者を弔う読経のようで、家族を亡くされた方々が頭を垂れて祈る姿に、(2頁5段目に続く)

日本聖公会 神戸教区報

神のおとずれ

2012年5月号

発行所 神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
http://www.nskk.org/kobe/

発行責任者 司祭 芳我 秀一

印刷所 文明堂印刷所

鳩だより

《敬称略》

祝 洗 礼

3月10日(土) トマス岡本 淑明
パウロ太田 温都
ミカエル太田 結都
岡山聖オーガスチン教会

3月11日(日) ハンナ濱生 こずえ
パウロ濱生 惇
モニカ濱生 睦
3月24日(土) 浦生 香
ベテロ松 広島復活教会
岡山復活教会

3月11日(日) 逝 去

テモテ 福井 敏了(80歳)
神戸昇天教会

◎岡山聖オーガスチン教会
3月末をもって退職される、

5月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時 2012年6月14(木) 午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 主教 中村 豊
説教 司祭 芳我 秀一

6月の記念逝去教役者

8日	司祭	チャールズ F	ワレン
13日	司祭	ダニエル	植村 信久
13日	司祭	ヘンリー	ビート
13日	伝道師	マリア	鈴木 嵯峨
19日	伝道師	ヨハネ	伊木久次郎
19日	司祭	ダビデ	横田 豊
20日	司祭	トマス	角瀬 史和
20日	司祭		牧岡 鉄弥
20日	主教	テトス	中道 淑夫
22日	司祭	施洗者ヨハネ	佐々木 崇
23日	司祭	マタイ	覚前 信三
29日	主教		横田 道信

ルカ伊神 努司祭の送別礼拝が、3月25日(日) 中村教区主教を迎えて行われた。礼拝後、伊神司祭を囲んで、伝道区合同の茶話会が開かれた。尚、伊神司祭の、4月からの転居先は左記の通りです。〒700-0952 岡山市北区平田 125-1103 1103 1103 携帯電話090-3179-5468

新刊紹介
旧約聖書を学ぶ人のために
世界思想社 2,415円
著者(編者) 並木浩一
荒井章三
国際基督教大学名誉教授
神戸松蔭女子学院大学名誉教授・元学長
神戸聖ミカエル教会信徒
旧約聖書の特徴ある歴史観、律法、詩文、預言などの中心的メッセーをテーマ別に掘り下げて明快に解説する。旧約学研究の現在をも紹介するユニークな入門書。

広島平和礼拝2012のご案内

神戸教区 各教会のみなさま 2012年5月

神戸教区主教 アンデレ 中村 豊
「広島平和礼拝2012」実行委員長
司祭 オーガスティン 小林 尚明

「広島、長崎の原爆のときは、その後どんな惨禍が起こるのかよくわかっていませんでした。日本人は身をもってその惨禍を体験しました。けれどもその教訓が何も生かされなかった。今度は原爆ではなく原発事故の被曝によって、これから国民が一生苦しむような、非常に多くの被害を出すでしょう。東北の方たちが大事にしていたふるさとが破壊され、子供たちの未来に大きな影響を及ぼすことは間違いありません。その悲劇に、『原発を作れば電気がたくさん供給できて日本は世界に冠たる文化国家になれるという嘘が重なっている。』(加賀乙彦)

東日本大震災によって引き起こされた原子炉のメルトダウンによる放射性物質拡散により、原子力平和利用を標榜しての原発安全神話がこなごなにくだされました。この災害は、原子爆弾によって悲惨な目に遭った広島・長崎の教訓の忘却、科学技術の過信、効率優先、利益第一を旨とした経済活動、豊かでより快適な社会追求などを反省する機会が私たちに与えられております。

放射能汚染で避難を余儀なくされている福島の人たちを覚えつつ、核兵器・大量破壊兵器の恐ろしさと、争いの愚かさを今の世界に伝える広島の地で、「キリストの平和」を共に学び、祈りの時を持ちたいと願っております。

■行事名	広島平和礼拝2012	■プログラム ※時間はすべて予定です。
■テーマ	ともに学び、行動し、祈ろう。そして一歩前へ。	5日(日)
■聖句	平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。(マタイ福音書5:9)	12:00 昼食
■開催日	2012年8月5日(日)・6日(月)	13:00 被爆証言と平和の主張
■申込締切	2012年7月10日(火)	14:00 ブレーク
	宿泊などの手配等ございます。所定の申込用紙にご記入の上、ファックスにて上記期日までに広島復活教会必着をお願いします。	14:20 分かち合い
		15:20 歌の練習
		15:50 軽食 以上、すべて〈広島復活教会〉
		16:10 平和公園に向けて出発
		17:00 歌の練習 〈平和公園〉
		17:15 祈りのつどい 〈同上〉
		17:50 平和行進 〈平和公園〜世界平和記念聖堂〉
		(18:00 祈りのつどい 世界平和記念聖堂・地下聖堂)
		19:00 平和祈願ミサ 〈世界平和記念聖堂〉
		6日(月)
		6:15 原爆死没者慰霊行事 〈平和公園〉
		8:00 原爆犠牲者追悼聖餐式 〈復活教会〉

※お問い合わせ・お申込みは、広島平和礼拝実行委員会事務局まで (日本聖公会広島復活教会 〒730-0014 広島市中区上幟町10-11)
TEL : 082-227-1553 FAX : 082-227-0818 E-Mail : kobayashi@hpps.web9.jp 「広島礼拝ホームページ」 http://hpps.web9.jp/

鳥取聖ルカ教会宣教協議会取り組みの経緯

ダビデ 中嶋 武士

1. 鳥取聖ルカ教会の現状

当教会の受聖餐者は、男性5名、女性11名で、主日礼拝平均が6・8名である。過半数の信徒は、年金受給者であるが、いまだに社会の一員として働く者もあれば、ボランティア活動に携わっている者もいる。定住牧師のいない高齢化した教会である。

2. 教会委員会に神戸教区宣教協議会趣旨の報告

2011年8月14日(日)教会委員会で、7月18日(月・海の日)に実施された神戸教区宣教協議会の趣旨が報告された。

また、8月末日までに、宣教協議会ワークシートを信徒全員に配布、9月中にワークシート作成作業、10月9日(日)教会委員会後、作成したワークシートに基づいて、第1回宣教協議会を実施することが決議された。

3. 第1回宣教協議会実施

2011年10月9日(日)14:00～16:00。出席者、芳我司祭、信徒7名。

ワークシートの各設問ごとに、一人ずつ発表した。

4. 第2回宣教協議会実施

2012年2月12日(日)14:00～16:00。出席者、芳我司祭、信徒8名。

第1回宣教協議会でワークシートをもとに、自由に発表したが、この中で鳥取聖ルカ教会の現状を鑑み、信徒で努力すれば達成できそうなものはどのようなことかという視点で、教会のビジョンやビジョンを実現するための具体的な行動目標作成について話し合った。

5. 第3回宣教協議会実施

2012年3月11日(日)14:00～16:00。出席者、芳我司祭、信徒8名。

第2回宣教協議会で話し合われた教会のビジョンやビジョンを実現するための具体的な行動目標について、宣教協議会担当者が原案を作成し、協議会に提案した。協議会では、原案をもとに検討、修正し、鳥取聖ルカ教会の宣教にかかわるビジョン3点と、具体的な行動目標14点が作成された。

鳥取聖ルカ教会のビジョン

1. 神との交わり

「主日礼拝を守ると共に、靈に満たされた生活に努める」

具体的行動目標

- ①主日礼拝を努めて守る。
- ②それぞれが感謝して捧げ物をする。
- ③礼拝は互いに役割分担して行う。
- ④教会の維持、管理に努める。

2. 信徒の交わり

「信徒一人ひとりが、教会の一員として自覚し、聖霊の交わりの中で、互いに協力しあって生きる共同体を目指す」

具体的行動目標

- ①教会の活動については、一人ひとりが役割を担う。
- ②信徒全員で行う活動については、教会委員会で計画案に基づいて話し合う。また、決議されたものについては、信徒全員に配布する。
- ③教会委員、その他の役割については、特殊なもの以外3年ごとに交代しあう。
- ④教会から遠ざかっている信徒への情報提供は必ず行う。

3. 社会の中の教会

「地域社会に奉仕する教会として、近隣の人々と交流を図り、愛の絆で結ばれた社会づくりに参与する」

具体的行動目標

- ①教会存立の意味を地域との交流活動で広めるために、会館を改築し、近隣の人々に提供する。
 - ②会館については、多くの人が使用できるような建物にする。
 - ③会館使用交流活動は、計画案のもとに責任者等役割分担を決めて行う。
 - ④会館使用交流活動は、必ず信徒全員、該当者等に情報提供を行う。
 - ⑤会館使用交流活動は、必ず反省を行い、記録を残す。
 - ⑥2012年の交流活動は、左記のものとする。
- 野外礼拝…5月。愛の奉仕…7月、9月の2回。バザー…11月。降誕祭…12月。

4. 診断と評価

ビジョンと具体的行動目標については、毎年自己評価を実施し、結果を信徒全員に配布する。(鳥取聖ルカ教会信徒)

東日本大震災関連情報

7月以降の小名浜聖テモテ・ボランティアセンターの活動について

常置委員会報告(京都教区藤原健久司祭の総会報告より)

小名浜聖テモテ・ボランティアセンターを開始する時、活動の期限が決められました。それは、ある程度の見通しを持って行う方が良くと判断したのと、センターを設置している小名浜聖テモテ教会・幼稚園の負担を取り払うためです。同センターは、6月一杯で活動を終了する計画で、活動を行ってききました。

しかし、仮設住宅に住んでおられる方々の状況をお伺いする限り、同センターの活動



4月22日(日) 泉玉露仮設住宅事務室で行われた自治会、連絡員、諸ボランティア団体の会合

7月以降は、今まで行って来た、日本聖公会内におけるボランティアの募集と派遣を中止し、地元の方々を中心とした活動に移行し、その活動をコーディネートし、様々な支援を行うため、1ないし2名の常駐者を滞在させることにしました。

この活動を、「いっしょに歩こう!プロジェクト」が最終する、来年5月まで行うことにしました。

東日本大震災1年行事

東日本大震災発生から1年目の、3月11日(日)、各教会では、主教会メッセージが朗読され、犠牲者、被災者のために祈りが捧げられました。

また関係学校、諸団体においても、追悼行事が行われましたが、神戸松蔭女子学院大学では、前日の3月10日(土)13:00から、東日本大震災チャリティ・コンサート&シンポジウムが行われ、開会にあたって、院長である中村豊教区主教が祈りを捧げられました。

尚、中村主教は、その後、14:00から大阪教区川口基督教会で行われた、東日本大震災1年記念礼拝において、説教奉仕をされました。



祈りを捧げる中村教区主教

中高生大会準備会を終えて

大会長 アントニー 小林 和 真



教区内より中高生準備会に集まった仲間と共に。

ループに分けて考えました。参加者をもっと増やす、事前の準備を十分する、プログラムを見直す、役員の意識を高めるなど、それぞれの思いを発表し合いました。役員みんなの大会に対する思いを分かち合い、深めることができたと感じました。

大会当日のプログラムについても、役員でアイデアを出し合い、一つ一つの内容を工夫し、例年になく新しいプログラムを取り入れ、より楽しい大会にしたいという意気込みで取り組みました。中高生主体でこの大会を行えるように、残りの数ヶ月、役員で十分な準備をしていきます。49回目の歴史ある大会に、中高生の皆さん、ぜひ参加してください!

初参加の人も大歓迎です!参加者全員で「えがお」溢れる大会にしましょう!

(広島復活教会信徒)



(1頁から)あの日から時間が止まったまままだ、と語られた被災者の姿が重なりました。時間をかけてゆっくりとしたペースで、苦しむ者たちと向き合う必要を感じました。

未だ行方不明の方々が多くおられる中、一年で区切りを付ける事ができない人、絶対家族の死を受け入れることができない人もおられます。被災地の人々の思いは複雑で、慰霊行事をどの様に行うか最後の最後まで悩んだそうです。また、次第に生活に格差が出てきて、いつまでも甘えていてはいけない前向きに思う人と、気力のわかない人、仮設に目が注がれる中、自宅避難者は忘れられていく現実、支援も地域毎で細かく対応するものになっていく必要があるようです。

どうであれ、出来事を忘れず、被災した方々と歩みを共にし、サポートしていくことは、神様からの私たちへのチャレンジです。

私たちは、イエス様の生き方に倣い、支援活動を神の栄光を現すものとして、今後も続けて参りましょう。

(松蔭中学高等学校チャプレン・神戸松蔭女子学院大学非常勤チャプレン)